



図書館 だより

図書館 ☎69♦3706

おしえて! 図書館(レファレンス)

Q ドングリって、どんな種類があるのかなあ?

A はい、こちらの本はいかがでしょう?



拾って探そう
落ち葉とドングリ
松ぼっくり
平野隆久/写真
片桐啓子/文
山と溪谷社

ドングリをつけるブナ科の木は日本の野山に22種類ほどあるそうです。さまざまな大きさや形…比べてみると楽しいですね。ドングリの他にも落ち葉や松ぼっくりもカラーで紹介。身近な秋を楽しんでくださいね。

レファレンスとは情報や本などを探してお手伝いをする図書館のサービスのひとつです。

図書館に入った本



いろいろな本があります。
一部をご紹介します♪

	『修羅走る関ヶ原』 山本兼一/著 集英社
	『考えるマナー』 赤瀬川原平ほか/著 中央公論新社
	『ぜんぶおうちで作れる デバ地下・有名店の大人気マリネ』 タツミムック 辰巳出版
	『愛知「地理・地名・地図」の謎』 大塚英二/監修 実業之日本社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

フナムシのヒミツ

■水族館にも住んでいる

竹島水族館には現在500種類ほどの生き物がいますが、中には意図的に飼育・展示をしていない生き物がいます。カエルのエサで脱走したコオロギをはじめ、超老朽化施設なのでゴキブリも多いですし、ハサミムシ、ネズミなどの招かざる生き物たちです。その中でも水族館の裏側で一番多く目にするのは「フナムシ」です。「ふなっしー」ならうれいですが、「フナムシ」なのでうれしくありません。

■ゴキブリとは違う

ゴキブリの仲間だと思われがちですが、分類ではゴキブリはゴキブリ類ゴキブリ科で、フナムシは等脚類のフナムシ科であり、グループが違います。等脚類は最近人気の深海生物オオグソクムシや公園や神社で見るダンゴムシなどのグループで、特徴は左右に生えた多すぎる脚です。脚は左右に7本ずつ計14本もありキモチワルサをかもしだす特徴の一つとなっております。足の少ないヘビやミミズも気持ち悪いが、足の多すぎる生物というのも気持ち悪い。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68♦2059

■脚のヒミツ

フナムシにとつては「あのよ、脚っていうけどもよ、実は前から2番目までが手でその後ろからが脚なんだよ」とか言うかもしれないが生物学的にはみんな脚。人間は足が2本でも、歳を取るとか絡まって転ぶのに、フナムシは14本もある脚で、なぜ絡まらずに転ばずに、あれだけ高速移動ができるのか不思議です。浜辺で転んでテレ笑いしているフナムシは見たことがない。

多数ある脚の一番後ろの足は左右そろえることができ、なんとそろえた脚から毛細管現象で水を吸い上げ腹にあるエラまで運び呼吸をしています。その水を肛門から体内に取り込みます。つまり、口でなく肛門から水を飲んでいる

のです。しかも真水よりも塩水が好ましく、陸上生活でありながら体内は海中と同じ環境であり、そのくせ泳ぐことはできても長期間だと溺れ死ぬというなんとも不思議な生物なのです。

■子育てもする

フナムシのメスは一定期間卵をお腹に付けて守ります。産まれた子どもはすでに小さいフナムシで、しばらくの間は母親のお腹にそのまま附着して生活します。お腹に子どもがいつぱい附着した母親フナムシを捕まえて、子どもが一斉に腹からうごめき逃げたら悲鳴必至ですね。

死んだ魚や海藻を食べる海のお掃除屋さんで、竹島の岩場にはものすごく大量にいますが場所によっては環境悪化で減っているようです。